



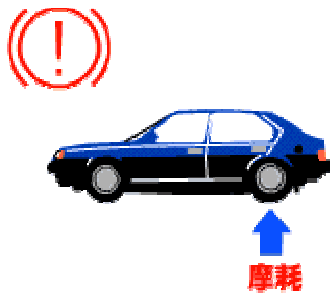
▶ ブレーキ豆知識

第3号掲載

ブレーキパッドと言えば、4輪ディスク車の場合フロント側が先に摩耗するのが半ば常識ですが、最近の車両の中にはリア側が先に摩耗してしまい交換するケースが多くなってきています。

さて、何故リアを先に交換するケースが多くなってきているのでしょうか？

答え



最近の車には高級車やハイパワー車に限らず安全性を考慮してトラクションコントロールが装備されている事が多くなりました。

トラクションコントロールと言えば、エンジンの出力を制御してタイヤの空転を押さえていましたが、アクセルを踏み込んでもトラクションコントロールが効くとエンジンの出力を落としてしまうため、「エンジンが吹けない」、「エンジンが壊れている」と言うような苦情が多くなってきました。

そこでエンジン出力で制御するのを止めて、ブレーキを制御することで空転を防ぐ様になり始めています。これがリアパッドの摩耗を加速させる原因になってきているのです。

リアのブレーキサイズは従来と同じ、特にFR車では駆動力が伝わっているリアドライブにドライバーがブレーキを踏まなくてもブレーキが使われる事が多くなっているのです。

もしブレーキの警告灯がついている場合、フロントパッドを調べがちですが、それでフロントパッドが充分残っていても「故障かな?」「不思議だな?」と思わずリアのパッドの摩耗状態を調べる事が大切です。

*トラクションコントロールには総合車体制御装置も含まれています。

印刷

<< 戻る